

# 徳一の仏教世界観をさぐる

## 大悲山磨崖仏にみる古代の仏教世界

法相宗大本山薬師寺録事・唯識学寮研究員  
磐梯町観光大使/京都橘大学客員教授

### 高次 喜勝


### 曼荼羅とはなにか？

- ・曼荼羅（マンダラ）
- ・マンダ（本質・神髄）＋ラ（所有するもの）
- ・密教（空海以後の密教）で仏・菩薩・天の世界を図示したもの
- ・「仏さまの世界」を表現したもの（広くいえば）
- ・顕教と密教・徳一と空海

### 顕教ってなんだ？

- ・顕現された教え（文字化した教え）
- ・教主は釈迦如来・お釈迦様
- ・お釈迦様が説かれたお経はだれでも読める
- ・「如来には諸法に対する教師の握りこぶしはない」
- ・誰にでも開示された教え「顕教」

日本でいえば...真言宗以外全部！



初転法輪像  
(インド・サルナート)

### 密教ってなんだ？

- ・秘かに密なる教え
- ・教主は大日如来（法身仏・毘盧遮那仏と合体？）
- ・凡夫には秘密だけど、仏様には秘密じゃない
- ・印法・陀羅尼（真言）・三摩地（瞑想）で仏の境地に至る
- ・結果が秘密なの
- ・秘密だから実践あるのみ
- ・インドでは仏教とバラモン教など（呪術）の混然

### インドの仏教の歴史

①ゴータマ・ブッダ (B.C.463?-383?・お釈迦様の仏教)

↓

②仏滅100年ごろ 根本分裂（守旧派と発展派で分裂）  
～仏滅300年ごろ 部派分裂（約20くらいのグループに分裂）部派仏教

↓

③～A.D.100年ごろ 大乘仏教の誕生

- 〈初期〉 **法華経**（紀元前後）無量寿経・般若経典・華嚴経
- 〈中期〉涅槃経・維摩経・勝鬘経（如来蔵経）  
龍樹(150～250?)（中観）・無著(390～470?)世親(400～480?)（唯識）
- 〈後期〉 **密教**（初期・中期・後期）大日経・金剛頂経・蘇悉地経（7世紀ごろ）

### 徳一VS空海

- ・学問は法相宗・修法は古密教（雑密）だった徳一
- ・徳一にとってはあくまでも古密教はサブ科目
- ・純粋に密教だけの空海（顕教は密教を知るためにあるんだ）
- ・徳一『真言宗未決文』の独自性
- ・顕教側から密教に対しての違和感を明示した徳一の視点
  - ★即身成仏疑 ★梵字疑 ★毘盧舎那仏疑
- ・即身成仏したら、修行が足りない、慈悲がなくなる？
- ・梵字は「法然而有」じゃないし、誰か作ったものだよな？
- ・法身の毘盧遮那仏が説法するとは...？

### 例1, 天寿国繡帳 最古の浄土図

・622年、聖徳太子の薨去を悲しんだ妃の橘大郎女（たちばなのおおいらつめ）が、太子が往生した天寿国を女官たちに刺繍させたもの。

我が大王の告（の）る所世間は虚假（こけ）、唯だ仏のみはれ真なり、と。其の法を玩味するに、謂（おも）えらく、我が大王は応（まさ）に天寿国の中に生まるべし、と。而るに彼の国の形、眼に看叵（みがた）き所なり。柿（ねがは）くは図像に因り、大王往生之状（さま）を觀むと欲す。天皇之を聞き、悽然として告（の）りて曰く、一の我が子有り、啓（もう）す所誠に以て然りと為す、と。諸（もろもろ）の采女等に勅し、繡帷二張（ぬいもの）のとばりふたはり）を造る。

7

### 例2, 法隆寺金堂壁画

- ・法隆寺 金堂の壁面に描かれた12面の壁画（他に飛天も）
- ・日本最古の仏教壁画
- ・残念ながら昭和24年の失火により焼損。
- ・写真原版の画像と模写作品が残っている。
- ・如来と菩薩と阿羅漢たちが同居する仏様の世界を表現



### 例3, 綴織當麻曼陀羅

- ・浄土变相図 お経に説かれる仏国土の姿(相)を視覚化する
- ・本当は観経説相図 観無量寿経の解説のための絵解き曼陀羅
- ・天平宝字7年(763)、中將姫が阿彌陀如来・観音菩薩の力を借りて蓮糸を染めて、一夜にして織り上げたという
- ・本当は綴織で8世紀・唐で製作されたと推定される
- ・鎌倉時代の浄土教の普及とともに全国に知られる
- ・4m×4mの大作・唯一無二の綴織曼陀羅

染井園  
ツムラ記念館



9

### 智光曼荼羅

- ・智光上人（奈良時代の学僧）が親友の頼光が極楽浄土に往生した夢をみる。
- ・智光が阿彌陀如来に願ったところ、阿彌陀如来は「浄土の莊嚴を觀相念仏すべし」と教えて、手のひらの中に小さな浄土の姿をあらわした。
- ・夢から覚めた智光は絵師に描かせた
- ・行きたい場所をイメージすることは往生のてがかりになる



10

### 例4, 薬師寺金堂は浄瑠璃浄土？

・『薬師寺縁起』（1015年ごろ）に薬師寺金堂の様子が記録される

瑪瑙(めのう)を以て曼石(かずらいし)と為し、瑠璃を以て地と為し、之を敷く。黄金を以て繩と為し道を塚す。蘇芳を以て高欄を造り、紫檀を以て内殿の天井障子と為す。鉄繩を以て天蓋を釣り、宝蓋の四端交じり立ち、白輝の宝珠及び半月等、称(たた)へ計るべからず。(『薬師寺縁起』)

- ① (金堂) 地面は釉薬敷瓦 = (浄土) 地面はラピスラズリ
- ② 錐の縄で通路を区切っている
- ③ (金堂) 敷石は瑪瑙(白大理石?) = (浄土) 宮殿は瑪瑙など七宝

11

### 薬師如来の浄瑠璃浄土の様子

(浄瑠璃浄土の功德莊嚴は) 瑠璃を地と為し、金繩を以て道を界し、城闕、宮闈、軒窓、羅網は、皆七宝を以て成せり。・・・その国のなかにおいて、ふたりの菩薩摩訶薩あり。ひとり日光遍照と名づけ、ふたりを月光遍照と名づく。これ、かの無量無数の菩薩衆の上首にして、悉くよく彼の世尊薬師瑠璃光如来の正法の宝蔵をたもてり。諸の信心ある善男子・善女人等はまさに彼の仏世界(浄瑠璃浄土)に生まれんと願うべし。(『薬師瑠璃光如来本願功德経』)

12

### 徳一ゆかりの大悲山磨崖仏

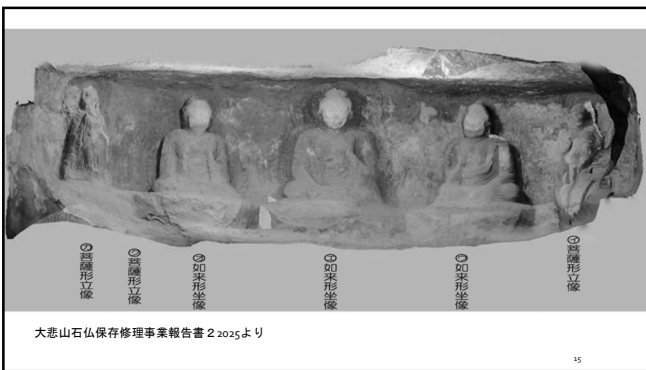
- ・大同年中に徳一によって造立されたと伝わる磨崖仏
  - ・平安時代前期と考えられる古い磨崖仏
  - ・凝灰岩の龕（幅15,3m・高さ5,45m・奥行5,2m）に如来像5体か、菩薩・僧形像4体を彫刻する。
  - ・中央の如来像の左右には飛天を彫刻。
  - ・如来像は像高270cm程度（丈六像）
  - ・（東壁）薬壺を持つ薬師如来、（正面）如来像3・菩薩僧形4、（西壁）欠損しているが如来像があったか
- 四仏はあるけど、五仏という信仰は見当たらない...

13



大悲山石仏保存修理事業報告書2025より

14



大悲山石仏保存修理事業報告書2025より

15

### 観音堂石仏

- ・薬師堂石仏とは別に観音堂石仏があり、千手観音坐像の石仏がある
- ・両手を挙げて阿弥陀如来をかかげる清水型千手観音
- ・高さは推定6,5mの巨大な像
- ・躯体部分の多くは剥落しており、上部の両手7手と化仏だけがのこる
- ・平安時代の土師器・赤焼土器が発掘されており、仏教儀礼(悔過・護摩)が行われていたことがわかっている
- ・そのほか、阿弥陀堂石仏があるが龕のみがのこる

16



大悲山石仏保存修理事業報告書2025より

観音堂石仏の発掘調査状況

18

### 大悲山磨崖仏の伝えるところ

- ・大悲山磨崖仏（薬師・観音）は古密教の山林寺院の影響下にある
- ・空海の密教ではない奈良仏教に通じる造像主が推定される
- ・地域的には徳一、それに続く人びとが造像した可能性が高い

もしかしたら...

- ・徳一教団が 顕教型「曼荼羅」を作ろうとした？

日本仏教史のなかでも、まれに見るキャラクターが徳一菩薩